



拓殖大学総長
教育再生をすすめる全国連絡協議会代表世話人

渡辺 利夫

肯定的で受容的な日本像を

子供達に与えてほしい

現代の教育において大きく欠けているのは、「公」に生きることの意味が子供達に教えられていないことです。

人間は「私」として生きると同時に、「公」つまり家族や共同体や国家のために生きる存在でもあります。このことを私どもはどうしたら子供達に伝えることができるのでしょうか。日本の歴史を肯定的に受けとめ、受容させることによって、日本人が献身すべき「日本像」を語り伝えることが必要です。そのためには、親や教師が次の三つの「形容詞」で日本について語ってみてはどうでしょうか、というのがここでの提案です。一つは「同質的」、二つは「自成的」、三つは「連続的」です。

日本は四方を海で囲まれた「海洋の共同体」です。同一の国土の中で、ほとんど同種の人々が、他国では使われていない、その意味で孤立的な言語である日本語を用いながら生を紡いできました。宗教上の争いが日本に亀裂を生じさせることはありませんでした。同種の人々が孤立的言語の日本語を用い、宗教上の争いもない「同質社会」、これが日本の特質です。こういう「同質社会」は世界で、日本以外に探し出すことはなかなか難しいのではない

でしょうか。

日本が同質社会であることは、中国と比較してみれば歴然とします。中国の歴史を彩るものは、王朝の反復転変史です。易姓革命と呼ばれる。徳を失った皇帝は、新たに天命を授かった支配者によって命を革められます。これが革命です。また、皇帝の姓もまた易められるのですが、これが易姓です。革命の「革」も、易姓の「易」も、いずれも「あらためる」という意味です。

中国では、北方の遊牧民族や騎馬民族による征服王朝さえ、しばしば出現しました。近くはモンゴルによる元朝、満州族による清朝がそうです。つまり、多様な民族の混淆する「異質社会」が中国です。人類学の用語法でいいますと、同質社会日本の発展が「自成的」、つまり自ら成ったものである一方、異質社会中国の発展は「他成的」、つまり他文明の影響を徹底的に受けて成ったものだということができます。

ですから、中国の歴史が「非連続的」である一方、日本の歴史は「連続的」です。先ほど、私が日本のことを「海洋の共同体」だといったのも、そういう歴史意識のゆえです。この大いなる共同体、同質的で自成的で、かつ連続的な歴史をもつ日本という国のありようを、目にみえる形で私どもの前に現出させてくれるものが、「万世一系」の天皇です。

まずは親や教師が、この三つの意識にめざめ、子供達を教化することがどうしても必要だと私は考えます。

わたなべとしお 拓殖大学総長。昭和14年6月甲府市生まれ。慶応義塾大学卒業、同大学院修了。経済学博士。筑波大学教授、東京工業大学教授を経て現職。外務省国際協力有識者会議議長。第17期日本学術会議会員。アジア政経学会理事長(元)。山梨総研理事長。外務大臣表彰。正論大賞。『成長のアジア 停滞のアジア』(吉野作造賞)、『開発経済学』(大平正芳記念賞)、『西太平洋の時代』(アジア太平洋賞大賞)、『神経症の時代』(開高健賞正賞)、『新脱亜論』(文春新書)『アジアを救った日本近代史講義』(PHP新書)など多数。